

会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
川名委員	<p>委員より意見書にて提出された意見を記載</p> <p>— 地域包括支援センターについて —</p> <p>地域包括支援センターの運営について、コロナウイルス感染対策が気遣われるところである。</p> <p>私の知る包括支援センターでは、事務室は密な状態であり、職員同士のコミュニケーションにも気を使われたことだと思う。また、相談業務に関してもコロナが原因で思うように活動ができなかったと推察している。各包括の事務所内環境を少しでも良くすることに市も努めていただきたい。</p>
大澤委員	<p>9か所の地域包括支援センターの事業計画書について、各々多岐にわたる業務についての綿密な計画書が作成されている。</p> <p>地域包括支援センターの業務は、関係機関との連携が必須であり、住民の相談窓口としても益々多忙となるのではと思う。</p>
瀧澤委員	<p>各地域包括支援センターより提出された事業計画書について、基本計画の目標であるため仕方のないことだとは思いますが、昨年度と大差ないのではないか。</p> <p>(地域支援担当回答)</p> <p>地域包括支援センターの設備環境については、人数に対して事務室の面積が狭く、密の状態になってしまうことは認識している。このような状況ではあるが、各包括支援センターでは感染対策を強化するとともに、在宅勤務の実施の協力をいただき、感染対策に取り組んでいる。</p> <p>今後、地区センター化によって、地域包括支援センターが移転する際</p>

発 言 者	発 言 内 容
川名委員	<p>には、設備環境に配慮した事務室となるように、地区センターを担当している部署と協議していく。</p> <p>また、事業計画については、ご指摘のとおり大きく変更したところはないが、第8期介護保険事業計画に沿って、成果指標で目標としている介護予防教室の男性参加率向上などの取り組みについて、令和3年度の事業計画では追加している。</p> <p>— 一般介護予防事業について —</p> <p>高齢者にとっても、一年間ほぼ自粛した生活が続き、精神的にも体力的にも大きな困難を抱えているのではないかと感じています。今年度は、難しいながらも工夫して介護予防事業を実施していただきたい。地元のボランティア団体、市民とも情報を交換し合いコロナ禍でもできる介護予防をすすめていただきたい。</p>
大澤委員	<p>昨年度はコロナ禍のなか、一般介護予防事業やサロン等開催が難しく、苦勞されたと思う。外出機会が制限されている高齢者のフレイルの問題が顕著となっており、介護認定の申請者が増加していると聞く。短期間で解消される問題ではないと思うので、今年度は入間市全体として工夫や検討が必要なのでは、と感じている。（居宅介護支援でもコロナ感染が心配で通所休止している方が増えており、状態悪化が懸念されている。）</p> <p>（地域支援担当回答）</p> <p>外出自粛等による身体活動の低下やフレイルの予防のため、新型コロナウイルス感染症緊急対策地方創生臨時交付金（追加分）を活用し、要支援認定者及び事業対象者に介護予防運動用具（ミニボール）等を配付し自宅でできる体操を支援した。また、入間ケーブルテレビや市公式</p>

発 言 者	発 言 内 容
大澤委員	<p>You Tube にてフレイル予防の体操を放映している。</p> <p>それから、地域の通いの場が活動を自粛しているときは、市が介護予防のパンフレットを配付したり、市民ボランティアが毎月、脳トレや介護予防資料を郵送したりする支援を行った。</p> <p>さらに、室内での活動は自粛が続く中、屋外での体操に取り組んでみたり、ZOOM を用いたオンラインの介護予防教室の実施に至った例もあり、各地域で新しいスタイルの活動も生まれている。</p> <p>市としては、今後も情報収集をしながらコロナ禍でもできる介護予防をすすめていきたいと考えている。</p> <p>— 地域ケア会議について —</p> <p>地域ケア会議の実施について、地域によって特色があり、課題の内容も多岐にわたっていると思うが、多職種や地域住民との連携も必要な会議だと思うので、運営方法について入間市での取り組みモデルの提示や、開催方針の作成を是非お願いしたい。</p> <p>(地域支援担当回答)</p> <p>「資料1 令和3年度地域包括支援センターの運営方針」にて、地域ケア会議の開催方針については示しているところであるが、入間市における取り組みモデルについては提示していない。</p> <p>今後、各地域包括支援センターで行われた地域ケア会議の情報交換会等、包括同士で情報共有を行える機会を設けていくことで、他地区の活動も参考にしながら、地域ケア会議の活性化を図りたい。</p>
瀧澤委員	<p>— 生活支援体制整備事業について —</p> <p>介護保険事業計画でも推進が謳われている、生活支援体制整備事業について、第2層協議体の具体的な取り組み状況について伺いたい。</p>

発 言 者	発 言 内 容
大澤委員	<p>(地域支援担当回答)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、各生活支援コーディネーターが当初計画していた活動を行うことができず、苦慮することが多かった一年だった。そのような中でも、地域の方々と話し合いを積極的に行い、信頼関係を深めながら活動した。屋内での活動は休止になることが多かったため、屋外でできる活動や、自宅に居ながら取り組める活動に力を入れて取り組む傾向があった。</p> <p>豊岡東地域では、住民のニーズをくみ取り、新規サロンの立ち上げ支援を行い、「いき陽陽会」が立ち上がった。</p> <p>豊岡西地域では、協議体発足に向け、地域住民への説明会を開催した。まずは生活支援体制整備事業及び第2層協議体の趣旨や必要性を理解していただくことが必要であることが分かったため、各自治会へ生活支援コーディネーターが事業についての説明に回りながら、ニーズをくみ取っている。</p> <p>東金子地区では、第2層協議体にて、支え合い活動の立ち上げに向けた勉強会を実施した。</p> <p>金子地区では、第2層協議体の開催を重ね、議論を深めていき、助け合い組織の必要性について合意形成を行った。</p> <p>藤沢地域では、「元気が出るふじさわ未来ネット」定例会で地域課題を整理し、「元気なふじさわ大作戦」や「FUZISAWA HALLOWEEN」等様々な活動を企画し、実施した。</p> <p>—地域密着型サービスの整備について—</p> <p>グループホームと通所介護については、市内各地域に整備されているが、小規模多機能型居宅介護については、整備が不十分と感じている。増加傾向にある認知症の高齢者やひとり暮らしの高齢者が、住み慣れた地域での在宅生活を継続するためには、各地域に整備されることが望ま</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>しいと思う。現状では通所の送迎の関係などもあり、希望しても利用が難しい場合もある。</p> <p>(事業所担当回答)</p> <p>小規模多機能型居宅介護については、藤沢、東金子、西武地区に1か所ずつ現在3か所整備されている。</p> <p>8期介護保険計画では2か所整備するべく、公募をする予定であるが、頂戴した意見を踏まえ、募集、選定の際には現在整備されていない地域での整備ができるよう検討していきたい。</p> <p>小規模多機能型居宅介護の特性である通いと訪問を組み合わせ柔軟な対応を提供することで住み慣れた地域での在宅生活を継続できるよう、サービス提供の種類に地域差が無いように整備していきたい。</p>

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

3年 3月 31日

議 長 の 署 名

田中 希

